

本案起案ノ主旨

一、本案ハ南方作戰實施ニ際シ占領地統治ニ關シテ大本營カ方面軍司令官ニ作戰地全域ニ亘ル軍政實施ノ準繩タルヘキ統治要綱トシテ指示スヘキ内容ヲ包含スルヲ目的トセリ。從テ作戰各方面ノ地域ニ應スル統治要領案モ亦概ネ本要綱案ノ思想ニ統一セラレ起案セラレアリ

素ヨリ作戰地ハ方面ニ依リ其ノ本國ノ我ニ對スル敵性度、屬領トシテ本國トノ連鎖關係、平時統治機構ノ特質、民情就中我カ作戰目的等ニ應シ更ニ作戰實施時ニ於ケル國際情勢ヲ反映シテ占領地土着官民ノ我ニ對スル敵性度ニ著シキ相違ヲ生シ軍政執行ノ形態ニ自ラ大

ニ趣ヲ異ニスルモノアルヘキハ明カナルモ南方作戰ナル一途目的ノ
爲ニハ一貫セル占領地處理ノ方針ヲ存シ之ヲ具現スル爲ニハ自ラ一
律ノ準繩ヲ定メ得ヘク又更ニ一定ノ準繩ヲ以テ之ヲ律スル要アルモ
ノヲモ存スルハ自明ノ理ニシテ其ノ要綱力敵メ準備セラレアラサル場
合ニ於テ占領地ノ處理ハ定見ヲ缺キ應急ヲ事トシ便宜ヲ旨トシテ收
拾シ難キ混亂ニ陥ルヘキハ豫見ニ難カラス
本要綱案ハ之ニ備ヘ起業者ニ於テ必要ト認メタル項目ニ亘リ起業者
トシテ最善ト信スル結論ヲ擲ケタルモノナルモ未タ決シテ其ノ最適
タルヲ確信シ得サルモノトス

三 立案ニ方リ特ニ考慮セルトコロ左ノ如シ

14

(イ) 戦争遂行ニ必要ナル物資ノ獲得ヲ以テ第一義トス

蓋南方作戰ノ目的トスルトコロハ資源確保ニ存スレハナリ

(ロ) 南方作戰遂行ノ爲我カ國ノ支出スヘキ戰費ヲ占領地ノ犠牲ニ於テ極力節減スルノミナラス更ニ爲シ得レハ占領地ヨリ戰費ヲ吸收シテ國力ヲ倍養ス

占領地住民ノ福祉増進ハ終局ニ於ケル戰勝獲得後ニ於テ企畫ス蓋英米竝ニソ聯ヲモ敵トスル持久戰ニ終局ノ勝利ヲ獲得スルニハ我カ國ノ戦力維持ヲ第一條件トスレハナリ

(ハ) 占領地統治ニ關シ統帥系統ニ基ク統制ノ完璧ヲ期スルト共ニ作戰ト統治ノ圓滿ナル調和ヲ求ム

2

1768

第一 統治方針

一、戦争遂行ノ爲占領地ノ統治ハ最小限ノ勞力ヲ用ヒテ最大限ニ物資ヲ獲得スルヲ以テ主眼トセサルヘカラス。而モ物資ノ獲得ハ報酬ノ急ニ應スルヲ要シ之カ爲ニハ先ツ速ニ治安ヲ確立スルヲ第一義トス作戰地域ノ諸邦ハ幸ニ屬領ニシテ統治者ト被統治者ヲ容易ニ分離シ得ル状態ニアリ而モ被統治者ハ民度低ク我ニ對スル敵性度大ナラサルヘキヲ以テ在來ノ統治機構ヲ其ノ指導分子ヲ我ニ於テ掌握シ其ノ儘利用スルヲ最モ簡易ニ秩序ヲ恢復シ治安ヲ確立スル手段トスヘシ則チ我ハ單ニ統治者ニ屬スル若クハ獨自ノ見地ニ基ク抵抗分子ヲ排除シ從前ノ統治者ニ代リテ其ノ儘ノ形ニ於テ民衆ニ臨ムコトニ依リ

作戰ニ伴フ混亂ヲ最モ簡易ニ收拾シ得ルモノトス。之レ當時ニ統治ノ爲ノ我カ直接的勞力ヲ省略スル最良ノ手段トモナルモノナリ
ニ戰爭遂行中ハ統治ニ勉メテ面倒ヲ省キ所望ノ如ク資源ヲ確保シアレハ足ルヲ以テ現狀維持——之ヲ極端ニ謂ヘハ事勿レ主義カ第一ニシテ將來ニ於ケル占領地處理方案ノ如キハ後廻セトシ差シ支ヘナキノミナラス又斯クスルヲ最モ適當トス。蓋吾人ノ南方ニ對スル現在ノ認識ハ到底不足ヲ免レス從テ今最良ト信スル方策モ決シテ最善ヲ期シ難キノミナラス。戰後處理ニ決定的要素タル國際情勢ノ推移ニ至リテハ豫測シ難シ。故ニ當初ヨリ例ヘハ民族運動如キニ力ヲ用ヒ過早ノ言質ヲ與フルカ如キコトアラハ無用ノ摩擦ヲ惹起シ而モ

・徒勞ニ歸シ。若クハ將來歸結セル最善ノ方策ヲ取ラントスル場合之ヲ拘束スルニ至ルヤモ知レス。則チ斯ノ如キハ害有リテ益無キナ

要ヘ我レカ終局ニ於テ戰勝ヲ獲得セハ如何様ニモ處理シ得ルモノナルカ故ニ占領間其ノ地域ニ親炙シ研究ヲ加ヘ最善ノ方策ヲ準備シ置ケハ足ルモノナリ

三、比島。佛印ノ如ク現地政權カ其ノ邦土ニ於ケル我カ作戰行動ヲ認容スル可能性アルモノニ對シテハ我ハ先ツ極力該政權ヲ敵側ニ立たシメサル如ク萬般ノ手段ヲ講スヘキニシテ、幸ニ我ト妥協ノ態度ニ出フルニ於テハ我モ亦相當ノ讓歩ヲ以テ無益ノ抗爭ヲ回避スヘキ

ナリ。從テ其ノ主權ヲ尊重スルハ勿論要スレハ自立ノ爲財政的援助ヲナスモ友邦タラシムルヲ可トス。蓋之レ抗爭ノ爲拂フ犠牲ヨリ僅少ニシテ生産的ナルヲ以テナリ

第二 統治實施要綱

其ノ一 統治要領

一、統治方針ニ基キ其ノ要領ヲ稍々具體的ニシ特ニ我カ手ニ於テ如何ナル事項ヲ直接處理スヘキヤヲ明ニセリ
二、南方作戰ノ主目的ハ資源確保ニ存シ之カ爲ニハ占領地統治カ其ノ主體トナルカ故ニ統帥ト統治ハ不可分ニ屬ス。從テ統治當事者ハ當然統帥當事者ニシテ別個ニ占領地總督如キヲ設クヘキニアラス。

17
且又統治ノ實施ハ統帥系統ニ基キ確實ニ統轄セラルヘキモノトス。
特ニ官方全般トシテ資源確保上統制ノ要アルモノ多キニ於テ益々然
リトス。理想トシテハ陸海軍ヲ一體トスルモノナルモ次善ノ策ト
シテ方面ニ依リ分擔ス
而テ本項ニ務ケタル海軍最高指揮官代行ノ場合ハ陸軍カ占領セル地
域ノ一部ニ海軍カ根據地トシテ占據スル局部的地域ヲ指スモノナリ。
從テ之ニ關スル中央協定ハ純作戰域ニ屬スルヲ以テ作戰班ノ立案ニ委
ス

其ノ二 統治主務機關及其ノ管掌業務

一 方面軍特務部ノ編制案別表第一ノ如シ

編制案立案ノ根本ハ作戰目的ヲ圓滑迅速ニ遂行達成セントスルニア
リ。則チ參謀長ヲ特務部長トシテ別ニ特務部長ヲ設ケス。參謀
副長ヲ總務部長トシ、總務部政務班ニ第一課參謀ヲ加ヘ、産業
部長ヲ第三課長トシ、交通部ニ第三課參謀ヲ兼任セシメタルハ、
作戰力資源確保則チ占領地統治ニ則應スル如ク更ニ極端ニ謂ヘハ作
戰力統治目標ニ追隨スル如ク遂行セラレ渾然一體タランコトヲ望ム
カ故ナリ。且又抵抗分子排除後ハ參謀部純作戰業務ハ閑散トナル
ヲ以テ其ノ努力ノ主體ヲ統治ニ指同シ政務班長ニハ第一課長ヲ充當
シ其ノ他參謀ヲ流用シテ特務部ノ内容ヲ擴充スル豫定ヲ有ス
總務部ハ他部ト對立的ナラスシテ其ノ業務ヲ統轄スルヲ本旨トス。

則チ參謀副長ハ事實上ニ於テ特務部ノ主任者タリ

管掌業務ノ主トスルトコロハ(四)及(ハ)ニシテ綜合研究、全般計畫ノ

立案竝ニ各軍業務ノ統制ニ關シ(イ)ノ各軍占領地統治實績ノ監察指導

ハ占領地統治ニ關シ方面軍ノ軍ニ對スル掌握力ヲ法文化セルモノニ

シテ過度ノ干涉ヲ意味セス寧ロ傳家ノ寶刀ニ屬スルモノトス

二、軍特務部 編制案別表第二ノ如ク其ノ立案ノ主旨亦前項ニ準ス

從テ編制小ナル軍司令部ニ於テモ特務部要員トシテ參謀副長ヲ置ク

モノトス

宣傳ハ軍力實行機關ナルヲ以テ強化セリ

業務中(イ)ノ高級官公吏任免ニ關シ最高幹部ニ就キ方面軍司令官ノ指

示ヲ必要トセルハ政策的見地ヨリ異論ヲ生スヘキ場合ヲ考慮セルモノトス

三、最高顧問ハ方面軍司令官カ委任セラレタル範圍ニ於テ統治ヲ實施スル上ニ政治、外交、産業等ノ部門ニ有力ナル諮詢機關ヲ必要トスヘク、而モ此種任務ヲ擔當スル人物ノ地位上參謀長ノ下風ニ立たシムルヲ穩當トセサルコトアルヲ考慮セルモノニシテ同時ニ此種人物ハ實務ヲ取ラサルカ故ニ賓客扱ヒニテ手足ヲ附セスシテ足ル場合多カルヘキヲ以テナリ

軍ノ顧問ニ大物主義ヲ排シタルハ其ノ必要ノ生スヘキヲ認メサルニアラスシテ、方面軍トノ意見ノ對立ヲ忌シタルト、軍ハ實行機

關ナルヲ以テ實務家ヲ用ユルヲ本則トストノ意見ニ依ル

其ノ三 行政對策

一、新タナル統治者カ人心ヲ收攬スルニハ所謂「法三章」主義ヲ以テ臨ムヲ理想トス。從テ之ニ則ルヘキハ當然ナルモ、戰爭遂行中ニハ當然被占領民ノ犠牲ヲ要求セサルヲ得サルヲ以テ其ノ避ケ難キモノハ當初ヨリ嚴ニ之ヲ要求シ、寧ロ初寛ニシテ後嚴ニ趨ランヨリハ、初メ嚴ニシテ後之ヲ寛クスル方結局ニ於テ速ニ人心ヲ安定セシムルニ效果アリ。蓋占領當初住民ハ當然戰禍トシテ苛酷ナル要求ヲ豫期シアルヲ以テ之ヲ受理スルニ易キニ反シ、一度緩ヲ以テ臨ミ人心ヲ安セシメタル後逐次嚴ヲ加フルニ於テハ信ヲ失ヒ常ニ不

安ヲ感シ竟ニ爆發ヲ誘致スル虞アルヲ以テナリ

三 人的資源ノ不足セル現況ニ於テ何事ヲモ邦人直接ノ監視下ニ置カン
トスルカ如キハ到底實行シ難キコトニ屬シ、而モ中途半端ニ終ル
場合ハ自治ノ氣力ヲ銷磨セシムルニ止マリ大害アルモノトス。故
ニ多少期待ノ減ニ達セサルモノアルモ之ヲ諦メ、上層部ヲ嚴ニ監
督スルニ止メテ土着機關ノ自動的運轉ヲ策セサルヘカラストノ主旨
ニ基ク

三 小兵力ヲ以テ廣大ナル地域ヲ制セントスル際ノ治安維持對策トシテ
考案セルモノナリ

四 日本人ノ几帳面ナル性格ヨリ些細ノ不都合ヲモ看過シ得ス又風俗習

20
慣ニ至ル迄自己ノ基準ニ則セシメントスル傾向ハ彼統治民ニハ迷惑
千萬ノモノトス。餘計ナル干涉ヲ蒙ラサルカ彼等ノ最モ希望スル
トコロナルヲ以テ戦争間占領地ノ民度向上ニ努力スルカ如キハ有害
無益ニ屬スト知ルヘシ

特ニ茲ニ留意スヘキハ佛印西部ノ佛教徒就中蘭印ノ回教徒ノ如ク狂
信的ナルモノ多ク、信教ノ冒瀆ハ直ニ決死ノ反抗ヲ誘發スヘキヲ
以テ、之ヲ直隕ニ徹底セシムルコト緊要ナリ

五宣傳實施上ノ着想ヲ述ヘタルモノニシテ説明ノ要ナカルヘシ
六之レ現地ニ親炙シ南方ノ實情ニ諳スル適確ナル認識ヲ把握セントス
ルモノニシテ統治要領ノ改善、將來ノ對策決定ニ頗ル緊要ナルモ

ノ
ト
ス

其ノ四 財政、金融、通貨對策

本對策ハ技術的ノモノナルカ故ニ專問的見地ヨリ論議ノ餘地最モ大ナルヘキモ、要スルニ本對策ハ露骨ニ謂ヘハ國際法ノ許ス範圍ニ於テ技術的ニ占領地ヲ最大ニ搾取シ我カ戰費ヲ節約シ戰力ヲ維持培養セントスル方針ニ基キ立案セラレタルモノトス。蓋帝國ノ犠牲ニ於テ占領地ノ福祉ヲ維持増進セントスルカ如キハ現下ノ我カ國力ヲ以テ言ニ望ミ難キノミナラス、却テ他ヨリ財源ヲ獲得セサレハ大戰ヲ遂行スル能ハス、而モ戰勝ヲ獲得スルニアラサレハ八紘一字ノ大理想モ實現シ難キヲ以テ、占領地ノ住民モ亦終局ニ於ケル東亞共榮圈ノ恩澤

21
ニ浴セシカ爲ニハ戰爭間ノ苦難ハ當然帝國民ト等シク之ヲ甘受スヘキ
ナリトノ論據ナリ

一、前項ノ主旨ヲ明示セルモノナリ

二、作戰軍自活主義ニテ軍費ハ衣食住ニ止マラス「帝國側ニ於テ必要ト
スル經費」ト共ニ更ニ廣範ニ及フ

三、財政問題ニ關シテハ制度ノ變更ハ特ニ容易ナラサルヲ以テ先ツ在來
ノ制度ニ依リ落チ着クニ從ヒ更ニ合理的ナル歲入ノ増加ヲ企圖セル
モノナリ

四、五、大別ニ説明ノ要ナカルヘシ

七、通貨ノ流通ハ一ニ信用ニ存ス。故ニ現地通貨ハ之ニ類似ノモノヲ

含ム一ヲ使用スルヲ流通上最良トシ國內流轉ノ爲ニ準備金ノ如キ
ニ必スシモ重大ナル考慮ヲ拂フ要ナキニ因ル

之ヲ戰史ニ徵スルモ西比利出兵ノ際軍票ヲ用ヒテ流通セス日銀券ヲ
用ヒテ又面白カラス平時ヨリ潛入的ニ流通ヲ見アリシ鮮銀券ヲ使用
スルニ及ヒ初メテ圓滑ナル流通ヲ見タリ。獨軍ニ於テモ當初白
蘭ニ軍票ヲ用ヒシモ流通良好ナラサリシヲ以テ平素ヨリ流通セル法
貨ニ換ヘシ前例アリ

支那ニ於テ我カ軍票ノ流通スルハ多年ニ亘リ頻繁ニ交代スル軍（政）
權カ勝手ナル銀行券ヲ發行シ之カ使用ヲ強制セル結果權力ニ基ク通
貨ヲ受理スル習慣ヲ馴致セラレアルカ故ニシテ寧ロ特例ニ屬スルモ

ノ
ト
ス

然ルニ作戰地ノ通貨ハ本國ニ於テ印刷セラルルモノ多キヲ以テ未發行券ノ押收ニ成功セサル場合ヲ考慮シ豫メ準備ノ要アルヘシ

止ムヲ得ス軍票ヲ使用スル場合ニハ之カ流通強制ノ手段ヲ講スルト共ニ新通貨準備成リ次第之ト交換スルヲ要ス

八、我カ占領地ニ於ケル金融、通貨政策上當然占領地ノ貨幣價值ハ下落スルヲ以テ其ノ累ヲ我カ國ニ波及セシメサランカ爲ナリ

九、説明ヲ要セサルヘシ

十一、占領地域カ封鎖セラルル關係ヨリ我カ勢力圏外ニ對シ問題ヲ惹起スルコト少ナカルヘキヲ以テ我ニ於テ處理シ得ヘシ

十三、軍管理工場トスル場合國際法上其ノ地政府資金ヲ融資ヲ合理的ト
スルカ故ニ此ノ手法ニ依リ我カ手ニ收ムヘキ産業企業ヲ其ノ地資金
ヲ以テ經營セントスルモノナリ

十三例ヘハ佛印、比島等カ本項ノ如キ狀態ニ留マル場合南方通商圈
内ニ於テ占領地域トノ間ニ統制ノ必要アル問題ヲ發生スヘキハ必然
ニシテ、而モ軍カ占領地統治ヲ擔任スル以上此種範圍ノ問題ハ政
府外交機關ニ移スコトナク軍自ラ直接交渉ヲ以テ處理スルヲ可ト認
ムルカ故ナリ

其ノ五 産業並ニ貿易對策

一、占領地住民自活能否ノ如何ハ治安維持上ノミナラス資源培養上ニモ

重大ナル關係ヲ及ホスカ故ニ之ヲ過度ニ輕視スルハ適當ナラス

ニ帝國資本ノ愛惜ニハ特ニ資材ヲ含ムモノトス。而テ南方ニ於ケル企業ヲ一手ニ擔當スル大綜合會社ノ既ニ設立セラレアル場合ニハ我カ流入資本ハ統一セラレ企業ハ計畫的ナリ得ルモ、然ラサル場合便宜的ニ個々ノ資本ヲ流入セシムルトキハ將來ノ計畫的開發ニ支障ヲ來ス虞ナシトセス。更ニ戰後ノ處理明確ナラサルニ占領ノ勢ニ乘シ奔流的ニ資本ノ流入ヲ見ルコトモ之レ亦將來ニ危險ナシトセサルナリ。以上ノ考慮カ戰時資本ノ節約ナル一般原則以外ニ資本ノ流入ヲ拘制セントスル所以ニシテ許可制トセル次第トス

一般邦人ノ移入ヲ極端ニ制限セルハ不良邦人ヲ排撃センカ爲ニシテ

且又産業對策ヨリスルモ直ニ一般邦人ヲ必要トセス。邦人ノ南方
發展ノ爲ニハ徐ニ方策ヲ定メ且適當ナル時期ニ至リテ着手スヘキモ
ノナルハ屢次事變ノ經驗ニ觀テ明カナリ

三、別ニ説明ヲ要セサルヘシ

四、第二項ハ占領地ノ自活ニ資シ且我カ勢力圏内ニ外貨ヲ獲得セントス
ルニ因ル

五、六共ニ説明ヲ要セサルヘシ

其ノ六 交通對策

一、治安恢復後ニ於テ依然軍自ラ鐵道ヲ運行スル要ナキノミナラス地方
産業ヲモ主トシテ住民機關ニ委スル關係ヨリ鐵道ハ成ル可ク速ニ在

來營業機關ノ經營ニ移管スル要アリ

軍ニ於テ必要ト認ムル物件トハ軍ノ蒐集スル物資竝ニ資源開發用資材如キヲ意味ス

二、渡洋可能船舶ノ大部ハ逃避スルモノト豫期セサルヘカラス。故ニ島嶼内ノ交通維持ニハ小汽艇竝ニ「ジャンク」ノ利用ニ着目スルヲ要ス

海運ヲ統制スルハ僅少船腹ノ經濟的使用ト外洋航海ニ掩護ヲ必要トスルニ在ル

三、飛行機竝ニ器材モ主力ハ逃避シ若クハ破壊セラルヘク作戰一段落ヲ告クル迄ハ空中戰ヲ豫期スル要アリテ軍用以外ニ使用シ難カルヘキ

モ、可能ノ時機ニ於テ成ル可ク速ニ定期航空路ヲ設定シ帝國資本ノ民間會社ヲシテ之ニ當ラシムヘキモノトス

四、島内ニ於ケル有線ハ占領地域内ノ統治其ノ他各機構ノ機能發揮ノ爲

ニ官民ニ開放ノ要アルニ因ル

五、別ニ説明ヲ要セス

其ノ七 占領地既任邦人及在留華僑並ニ歐系住民對策

一、及三、別ニ説明ヲ要セス

二、華僑ハ占領地内商業行爲ノ主體ヲ掌リアリテ占領地ノ經濟機構ヨリ

之ヲ除外シ得サルト、之ヲ我ニ附隨セシムルハ援蔣ヨリ汪政權支

持ニ轉向セシメ得テ新政府ノ育成ニ寄與スルトコト甚大ナルモノアリ

25

リ。從ヒテ之カ懷柔ハ頗ル緊要ニシテ場合ニ依リ實力ナキ土着民
ヲ犠牲トスルモ實力アル華僑ヲ招クヲ方策トスルコトアルヘシ。
華僑操縦ノ爲ニハ其ノ援蔣抗日運動カ蔣政權ニ屬スル政黨系小數人
員ニ依リ強制的ニ維持推進セラレアル實情ニ着目シ速ニ之ヲ驅逐シ
南京政府支持派ヲ以テ代シシムルヲ施策ノ第一トスヘシ。而モ此
ノ運動ハ軍自ラ表面ニ立タンヨリハ南京政府側ノ中國人ト華僑中ニ
其ノ人ヲ求メテ之ニ當ラシムルヲ却テ實效ヲ收メ得ル手段トスヘシ

別表第一

考 備		合 計	長 謀 参 長										業 務 區 分	方 面 軍 特 務 部 編 制 表					
考	備		計	主 兼 任	部 通 交				財 務 部	産 業 部	部 務 總				佐 官	尉 官	部 外 ヨリ	下 士 官	摘 要
					航 空	船 舶	通 信	鐵 道			政 務	庶 務							
一、本表ノ外自動車運轉手トシテ雇傭人二〇ヲ、又乗用自動車一〇、 二、本表ノ外所要ノ人員ヲ増加スルコトヲ得特ニ純作戦終末ニ近ツクニ 三、本表ノ外所要ノ人員ヲ増加スルコトヲ得特ニ純作戦終末ニ近ツクニ 加シ特務部ヲ強化ス			主 兼 任	一 佐 中 長	一 佐 中 長				主 計	主 計	主 計	主 計	主 計	主 計	主 計	主 計	主 計	主 計	
			三 七 六	一 各	一 各				一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
			主 兼 任						主 計	主 計	主 計	主 計	主 計	主 計	主 計	主 計	主 計	主 計	
			四 一 五						二	一	二	一	四	二	一	二	一	二	
			二 五						海 財 金 財	海 商 輕 重 鐵	法 國 際 法								
			二 一 八						土 蘭 佛 大	土 蘭 佛 大	土 蘭 佛 大	土 蘭 佛 大	土 蘭 佛 大	土 蘭 佛 大	土 蘭 佛 大	土 蘭 佛 大	土 蘭 佛 大	土 蘭 佛 大	
									部 外 文 官 八 各	工 省 系 統	部 外 文 官 八 各	工 省 系 統	部 外 文 官 八 各	工 省 系 統	部 外 文 官 八 各	工 省 系 統	部 外 文 官 八 各	工 省 系 統	

軍特務部編制表

業務区分		長 参 謀 長											
		總務部			産業部	財務部	交通部			計			
		庶務	政務	宣傳			鐵道	通信	船舶		航空		
將	佐官	参謀長			第三課長			第一課長			主計		
		第一課參謀	憲兵	第二課參謀	第三課參謀	主計	第三課參謀	同右	第一課參謀	主計			
校尉官	尉官	一	二	一	一	二	一	一	一	一	一	一	
		主計	二	一	二	一	二	一	一	一	一	一	
部外ヨリノ文官		國際法顧問			産業顧問			財務顧問			二〇		
下士官		政治顧問			鑛山工業			金融			一〇		
判任官		通譯			輕工業商業			海關			一三		
摘要		文官ハ主トシテ商工業系統ヨリ、關係ヨリ、力商社社員ヲ囑託トス			顧問、文官二大藏省ヨリ他ハ特種銀行ヨリ			船舶班佐官一ハ軍參謀ニ要員アル場合兼任セシムルモノトス			一三		

考 備

一、本表ノ外要スレハ方面軍司令官ノ認可ヲ經テ軍司令官直屬トシテ特務部業務ニ關スル高級顧問ヲ置クコトヲ得

二、本表ノ外産業部及財務部ニハ所要ノ現地監機關ヲ屬ス其ノ編制一例別表第二附表ノ如シ

三、本表ノ外自動車運轉手トシテ雇傭人二〇ヲ、又乗用自動車一〇、自動貨車一〇ヲ屬ス

四、本表ノ外所要ノ人員ヲ増加スルコトヲ得特ニ純作戰終末ニ近クニ伴ヒ政務班長ヲ第一課長ノ兼任トスル外參謀ノ兼任ヲ所要部ニ増加シ特務部ヲ強化ス

別表第二附表

現場監督機關編制基準表						
業 務 區 分	名 稱	主 務	主 計 文 官			
			佐討官	下士官	高等官	判任官
金融現 場機關	中央銀行ノ監督ノ通貨 發行管理ニ任ス	一	二	一	二	一
海關現 場機關	主トシテ海關業務ノ監 察ニ任ス	一	一	一	三	一
財務現 場機關	主トシテ大藏省及財務 署ノ監察ニ任ス	一	一	一	二	一
巡同監 督	主トシテ稅務行政機關、 各管理事業會社、鑛山 等ノ會計監督ニ任ス	二	四	一	一	一
一、本表ハ一ヶ班ノ基準ヲ示スモノナルヲ以テ編制ニ方リテハ機關所要數ヲ考慮シ タル要員ヲ一括シテ特務部ニ増加配屬シ現地業務ノ繁簡ニ適應スル如ク各機關ノ 大小ヲ特務部ニ於テ決定セシムルモノトス 二、産業部現地監督機關ハ製造所ノ管理強化程度、規模ノ大小等ニ應シ監督將校、技 術者ヲ以テ編制スルモノトス						